

特集



熊本震災へ 福井市派遣職員レポート



4月17日の給水活動の様子

◆人的・物的被害の状況

(1) 人的被害（4月14日からの累計）

	死亡	重傷	軽傷
合計	49	347	1,318

消防庁情報：6月16日現在

(2) 建物被害（4月14日からの累計）

	住宅被害			非住家被害		火災
	全壊	半壊	一部破損	公共建物	その他	
合計	7,696	23,094	113,428	243	1,238	16

消防庁情報：6月16日現在

熊本地震は、2016年4月14日以降に熊本県と大分県で相次いで発生しました。福井市は、熊本市との友好姉妹都市協定に基づき、いち早く4月16日に給水車を被災地に派遣し、17日から応急給水活動を行いました。

最大震度7の地震が2件発生するという経験したことのない地震に、被災地の状況や活動の内容はどうだったのか、実際に活動をされてきた皆さんに伺いました。



◆被災地での支援日程について教えてください。

野瀬 4月16日に第1班が福井を出発し、4月17日から5月1日まで、1班4人体制で第5班まで、計20人が支援活動に参加しました。1班あたりの活動は、給水作業そのものが3日間、往復の移動を含めると5日間の日程でした。



【第3班】
経営管理課 野瀬 允暢

◆被災地では、具体的にどのような活動をされたのですか。

塩田 第1班は、16日の昼に福井を出発しました。17日の朝4時に熊本に到着し、仮眠、7時20分からは給水活動を開始しました。初日は、浄水場にある水源で給水車に給水をし、上下水道局で待機している2トントン車に給水をするという作業、バッテリーを7サイクルこなして21時に作業終了となりました。

2日目は、市内28箇所の応急給水箇所のうち託麻原(たくまばら)小学校を拠点にしての給水作業となりました。被災から間もなく、給水箇所の周知も十分ではないのか、

初日と比べれば人はまばらになり、通りがかった人が気付いて給水していくという様子も見受けられました。



【第1班】
ガス・水道整備課 塩田 大樹

山口 4月19日からは、福井市の派遣者のうち1名が中央区のリーダーとして活動することとなり、給水活動だけでなく、各給水ポイントへの配水の差配なども行うようになりました。



【第1班】
給水管理事務所 山口 武彦

佐藤 最終的には、配水管での漏水や水道の濁水、断水状況などといった市民からの情報も整理して報告していました。

野瀬 第3班が活動した4月22日時点では、かなりの範囲で試験通水を開始していて、給水を求めてくるのは、濁水がある家や、配水管での漏水のため水圧が低く水が出ない人で、給水に行列ができるというようなことはもうなかったですね。

佐藤 第5班が活動を開始した4月29日からは、給水時間が4時間短縮されて10時から20時となりました。これに伴って起床時間が5時から7時に、給水量も1日で2トンから1トン程度になり、活動もかなり落ち着きを見せ始めました。このころから、給水所の縮小や撤収の話が出始め、結果5月1日まで、市内での応急給水活動と中央区でのリーダー活動に従事し、福井市は撤収となりました。

◆被災地の状況について教えてください。

佐藤 移動中には、通れなくなっている箇所も見受けられましたが、安全な経路が無いというような状況ではありませんでした。私が被災地入りしたときには、建物の応急危険度判定もかなり進んでおり、危険度を示す赤色や黄色の張り紙がしてある家も多くありました。また、そのような建物であっても人々が出入りしていることを目の当たりにし、被災生活の難しさを痛感しました。



【第5班】
ガス・水道整備課 佐藤 克幸

山口 水道施設に関しては、大きな配水管の根元がやられてしまっており、かなりの広域で断水となっている状況でした。復旧の状況としては、4月21日時点で99%以上水道管へ通水していましたが、漏水が多いところでは水が出ていない状況でした。応急給水でも最後まで水を求めて



熊本市応急給水支援日程		4月														5月								
		14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6
班		木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
第1班				移動		給水作業		移動																
第2班						移動		給水作業		移動														
第3班	地震発生									移動		給水作業		移動										
第4班													移動		給水作業		移動							
第5班																移動		給水作業		移動				

いたのは、水圧が低く水が出ないマンションなどに住んでいる人でした。

◆被災地で困ったことはどんなことでしたか。

塩田 第1班は、途中で食料を買うて熊本に入ったのですが、現地の状況から初日はとても食事がとれる

状況ではありませんでした。また、宿泊施設が無く、生活に水を使えないことによる影響が辛かったと思います。余震はひどく、数時間おきに大きく揺れるため、屋内では恐ろしくて眠れませんでした。

山口 福井市は、東日本大震災や新潟の中越地震のときも応急給水活動に参加して

すが、熊本市ともなるとさすがに遠かったですね。これは仕方の無いことでもあるのですが、使用した車のナビが古く、経路をスマートフォンで調べながら向かいました。

野瀬 自分たちのことではないですが、活動は早朝から夜まであり、交代している私たちと違い、現地の職員は大変だと思いました。災害対策本部では、特に情報の収集と整理に苦労している姿が感じられました。

◆被災地で活動して、個人的にも感じたことがあれば教えてください。

塩田 給水に来られた方が、ペットボトルから少しでも水が漏れただけでもすごく恐縮して謝っていたのが印象的でした。被災時の水の大切さ

を実感するとともに、自分がその水を扱う仕事に従事していることの責任の重さを感じました。

佐藤 応急給水箇所を閉鎖し撤収する際に、地区の小学生や小学校に避難されている方々が見送りに来てくれて、すごく感謝されました。その姿を見て、こ



上下水道局での打ち合せ

まで感謝されるなんて、水は本当に大切なのだと実感しました。また、福井に帰ってみると企業局のメールに熊本の市民からお礼が届いていたそうです。福井市の活動が福井市や公務員のイメージアップにつながって、私たちの必要性を住民の方に感じていただけたのなら大変ありがたいなと思いました。





小学校での給水活動の様子

◆熊本地震の状況から、取り組むべき課題や今後備えなければいけないこととして感じたことがあれば教えてください。

山口 現地では、浄水場で給水車に水を入れる施設が備えられ、また、給水施設の形状もドライバーズルーのように、順番に給水して、そのまま出発できるような形にし

てありました。非常時に現有の施設で対応することは可能ですが、有事のことを考えて使いやすい施設にしてあることに感心しました。

野瀬 給水を求めてくる人が少なくなつて私たちの活動は区切りがきましたが、人が少なくなつても困っている人がいる限り、最後まで現地での支援は続いていくんだと思えました。福井市でも災害時の活動について日頃から考えておくことが必要だと感じました。

(取材)

福井市公営企業労働組合

出蔵健至



予定表

